

實用新案登録出願人

美濃包材株式会社
株式会社 ト-7

3

代理人 弁理士 廣江武典 実開61-550

磁器の使用につれてその糸底下面に汚れが塗み付くのを防ぐこともでき、衛生上にもよいものであります。

4. 図面の簡単な説明

図面は、この考案をコーヒークップ及びその受皿に具体化した一実施例を示す断面図である。

1…受皿、2…糸底、3…保護被膜、4…コーヒークップ、5…糸底、6…保護被膜。

実用新案登録出願人

美濃包材株式会社

株式会社トーク

代理人

弁理士

廣江武典



ーヒーを入れたりしても、保護被膜(3)、(6)が退化することは全くない。

なお、この考案は前記実施例のほかに、例えば、保護被膜(3)、(6)を糸底(2)、(5)の下面のみでなく、その下面から糸底(2)、(5)の内周面及び外周面にわたって設けたり、保護被膜(3)、(6)をシリコンゴムとは異なる耐熱合成樹脂にて形成したりする等、任意に変更して具体化することも可能であり、又、この考案を前記実施例とは異なる茶碗等の食器や花瓶等を実施することも可能である。

考案の効果

以上詳述したようにこの考案は、糸底の下面に耐熱合成樹脂よりなる保護被膜を設けたので、釉薬の塗布されていない糸底の下面が外部に露出せず、陶磁器をテーブルの上面等に載置した状態で移動させた場合でも、そのテーブルの上面等が傷付くおそれを確実に防止することができ、又、陶



の密接により、受皿(1)上におけるコーヒーカップ(4)の横移動を防止するようになっているため、コーヒーカップ(4)が破損して受皿(1)のみが残った場合等においても、その受皿(1)を通常の皿として使用することができる。

又、この実施例の受皿(1)及びコーヒーカップ(4)においては、釉薬が塗布されていない糸底(2)、(5)の下面が外部に露出しておらず、保護被膜(3)、(6)にて覆われているため、受皿(1)がテーブル(7)上で横移動したりコーヒーカップ(4)が受皿(1)上で横移動することがあっても、テーブル(7)の上面や受皿(1)の上面が傷付くおそれは全くなく、しかも、使用につれて糸底(2)、(5)の下面に汚れが塗み付くこともない。

さらに、この実施例では保護被膜(3)、(6)がシリコンゴム等の耐熱合成樹脂により形成されているため、受皿(1)及びコーヒーカップ(4)を煮沸消毒したり、コーヒーカップ(4)内に高温のコ



、受皿(1)はテーブル(7)上でむやみに移動することなく安定状態で密着載置されるとともに、コーヒーカップ(4)も受皿(1)上でむやみに移動することなく安定状態で密着載置される。

ちなみに、従来では図面に鎖線で例示するように、受皿(1)の上面にコーヒーカップ(4)の糸底(5)と合致する凹所(8)が形成され、この凹所(8)内にコーヒーカップ(4)の糸底(5)を嵌合させて、受皿(1)上におけるコーヒーカップ(4)の横移動を防止するようになっている。そのために、コーヒーカップ(4)が破損して受皿(1)のみが残った場合等においても、この凹所(8)が邪魔になって受皿(1)を通常の皿として使用することはできなかった。

それに対して、この実施例の受皿(1)では、その上面に凹所(8)等が設けられておらず、上面が平坦に形成されていて、その平坦な上面とコーヒーカップ(4)側の糸底(5)下面の保護被膜(6)と



よりなる保護被膜(3)が全周にわたって設けられている。そして、この受皿(1)の上面には凹所等が設けられておらず、その上面が平坦に形成されている。

前記受皿(1)上に載せて使用されるコーヒークップ(4)も、受皿(1)と同様に素焼きの状態では表面に釉薬を塗った後それを焼成してなり、その糸底(5)の下面には同様にシリコンゴム等の耐熱合成樹脂よりなる保護被膜(6)が全周にわたって設けられている。

従って、図面に示すように受皿(1)をテーブル(7)の上面等に載置するとともに、その受皿(1)上にコーヒークップ(4)を載せて使用した場合には、受皿(1)の糸底(2)下面がテーブル(7)の上面に直接接触することなく、保護被膜(3)を介して接触するとともに、コーヒークップ(4)の糸底(5)下面も受皿(1)の上面に直接接触することなく、保護被膜(6)を介して接触する。そのために



もあった。

(考案の解決するための手段)

この考案は、前記のような問題点に着目してなされたものであって、糸底(2)、(5)の下面に耐熱合成樹脂よりなる保護被膜(3)、(6)を設けて構成している。

(作用)

従って、この考案の陶磁器では、テーブルや受皿の上面に載置して使用した際、それらの上面を傷付けるおそれは全くなく、又、使用につれて糸底の下面に汚れが染み付くこともない。

(実施例)

以下、この考案をコーヒーカップ及びその受皿に具体化した一実施例に基づいて詳細に説明する。

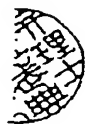
さて、この実施例の受皿(1)は素焼き状態で表面に釉薬を塗った後それを焼成してなり、その糸底(2)の下面にはシリコンゴム等の耐熱合成樹脂

上面等に載置した状態で移動させたとき、そのテーブルの上面が傷付くおそれがあり、又、陶磁器の使用につれてその糸底下面に汚れが染み付きやすいものであった。

このような不具合を解消するために、従来の陶磁器においては、焼成後に糸底を砥石等で研磨して滑らかにしていた。

(考案が解決しようとする問題点)

従って、従来の陶磁器では、糸底の研磨加工が非常に面倒であって、陶磁器の製作を煩雑なものとしているにもかかわらず、糸底の下面を十分な平滑面とすることができず、前記のような不具合を完全に解消するには至らなかった。そのために、糸底の下面を研磨したにもかかわらず、テーブル上面を傷付けたり糸底下面に汚れが染み付いたりするという問題が残り、特にコーヒーカップのように受皿の上に載せて使用する陶磁器においては、その受皿上面の釉薬層を傷付けるという問題



明 細 書

1. 考案の名称

陶磁器

2. 実用新案登録請求の範囲

糸底の下面に耐摩耗及び耐候性及び耐熱合成樹脂よりなる保護被膜を設けたことを特徴とする陶磁器。

3. 考案の詳細な説明

考案の目的

(産業上の利用分野)

この考案は茶碗、皿、コーヒーカップ等の食器や花瓶等を含む陶器及び陶磁器に関するものである。

(従来 of 技術)

一般に、この種の陶磁器は素焼きの状態で表面に釉薬を塗って焼成されているが、糸底の下面には釉薬が塗布されず、素地の粗い面がそのまま表れている。そのために、この陶磁器をテーブルの



公開実用 昭和61-55037

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭61-55037

⑬ Int.Cl.⁴

C 04 B 41/81
A 47 G 19/14

識別記号

庁内整理番号

7412-4G
7909-3B

⑭ 公開 昭和61年(1986)4月14日

審査請求 有 (全 頁)

⑮ 考案の名称 陶磁器

⑯ 実 願 昭59-137754

⑰ 出 願 昭59(1984)9月11日

⑱ 考 案 者	梶 原 太 郎	多治見市美坂町1丁目1番地
⑲ 出 願 人	美濃包材株式会社	多治見市京町4丁目19番地の1
⑲ 出 願 人	株式会社トーク	多治見市美坂町1丁目1番地
⑳ 代 理 人	弁理士 広江 武典	